ショーンKさんの英語力と騒動から学ぶべき事：権力バイアス

何か月か前に、ショーン川上さんと言うテレビにもよく出ていた経営コンサルタントの経歴詐称が問題になりまして、実際はハーフでは無くて日本育ちの日本人で、ハーバード大学の経歴も嘘だったと言う事でした。

そこで、「どうして、こんなにも長い間、経歴詐称が出来たのだろう？」と思って、ショーンさんが英語を話してる動画を見てみたのですが、若干、発音やイントネーションの付け方がネイティブスピーカーとは違って、日本人の英語だなと感じました。しかし、外国人のような名前と風貌、圧倒的な経歴から繰り出される低い声と早口で、ネイティブスピーカーが日常会話で使うようなフレーズをそれっぽく連呼するわけですから、多くの人が騙されるのは理解できます。

もちろん、経歴詐称が発覚した後に見た動画ですので、私の中で多少なり結果論と言う偏見があるでしょうが、経歴詐称を知らない複数のアメリカ人の友人も同じように発音とイントネーションの部分を指摘していました。

今回の騒動から学ぶべき事は、世の中には名ばかりの専門家が多く存在するわけで、経歴や名前などに翻弄される事なく、言動や能力などを通してその人の専門性を判断する必要があると言う事ではないかと思います。ショーンKさんのコンサルタントとしての知識や能力に関しては私は判断できませんが、経歴や名前、風貌を切り離して英語力だけを見れば、ネイティブでは無い事が推測出来て、その綻びからさらに言及や追求できる事があるでしょうから。

最後に、ショーンさんには、ぜひ本を出してほしいです。経歴は詐称しても、努力でビジネスと英語のスキルを付けてきたのは間違いないでしょうから、経歴の無い人間がどうやって成功するかと言う部分で非常に多くの人に反響するような本になるのではないでしょうか？